

山びこ通信

10月号
2004.10.8

第8回 青春ライブ授業！



『英語から古典語へ』
(第6回目)の授業風景

「星野道夫との出会い」(タイトル未定)

講師 松本紀生(自然写真家)

日時 10月29日(金)

午後7時～8時30分

場所 第3園舎(つき組の部屋)

対象 中学・高校生・一般 / 入場無料

あの松本紀生氏が、『青春ライブ授業！』に登場します！ 一体どんな中学・高校生時代を過ごされたのか、アラスカを目指すまでには、どういうドラマがあったかなどを、この場に参加される中高生・保護者のみなさんと本音トークで語り合う90分です。

第5回 山びこクラブ



前回来てくれたお友だち。
また遊びにきてね！

「かみひこうき・キャッチ！(再)」

日時 10月15日(金)

午後 4時～5時30分

場所 ようちえんのお庭(雨天はひねもす部屋)

対象 小学生 / 無料(もちろん)

- 紙ひこうきを、雪合戦をするように、作って、飛ばして、キャッチして、あそぼう！(ほか：何回飛ばしてゴールにつくか、「紙ひこうきゴルフ」など)
- 特製あみを用意しています。それを使ってあそびましょう！
- 雨の日は、定番ダンボールの90分！ ひねもすもしたい人は、チラシを一たば、お家から持ってきて下さい。

『山びこクラブ』『青春ライブ授業！』は、お電話またはFAX(別紙)にてお申し込みください。

第5回

ふれあいサタデー



「おたのしみ会&フォトシンフォニー」

講師：松本紀生（自然写真家）

日時：10月30日（土）午前9時30分～11時30分

場所：つき組のお部屋

対象：在園児・卒園児・山の学校会員とそのご家族・お知り合い

前回(5月)の『アラスカ原野・一人旅』は、小学生対象でした。今回は、幼稚園の子どもたちが主役です。アラスカの自然や動物(クジラやアザラシ)のお話が飛び出しますよ！ また前半には幼稚園の先生たちによる「お楽しみ会」があります！ どうぞふるってご参加ください。(お申し込みは幼稚園の「お知らせ」を通じて)

第5回

ミニミニようちえん



前回きてくれたおともだち。
またあそびにきてね！

「みにみに運動会！」

日時：11月6日（土）午前10時～11時00分

場所：ようちえんのお庭

（最初は「ゆきぐみ」にお集まりください）

対象：未就園児（年齢は問いません）とそのご家族

* さあつぎはどんなことが、まってるカナ??

ラテン語のタベ

日時 11月12日(Fri) 20:00~21:30



場所 第3園舎(つき組の部屋)

対象 一般・高校生 / 入場無料

第6回目(2004年8月27日)

講師:山下太郎

題名:『英語から古典語へ』



「青春ライブ授業！」を振り返って——山下太郎

この日のテーマは「英語から古典語へ」ということでしたが、子どもたちの顔を見ていると、中学、高校時代に舞い戻った錯覚にとらわれ、自然に英語の話が中心になってしまいました。当時の自分には未知の領域であったヨーロッパの古典語(ギリシア語・ラテン語)の話題は、中学・高校時代にタイムスリップした私の目線からは、いささか場違いなテーマに思えたからでした。

実際、この日は、勉強の話よりもクラブ(私はテニス部でした)の練習のエピソードや、クラブと勉強の両立の話が圧倒的に多かった気がします(前に座っていた小学生の男の子が元気な野球少年だったせいもあります)。

とはいえ、最後には用意してきたボロボロのラテン語辞書や教科書(おまけはルネサンス時代の革表紙の文献)をお見せしながら、大学時代に私が英文科から西洋古典に専攻を変えた経緯や、その後の勉強(と研究)の中身について、少しお話しする時間がもてました。なんとかギリギリセーフといったところです。

失敗談、脱線話に終始した2時間でしたが、英語と古典語に限定して振り返りますと、私にとっては厳しくも情熱溢れた恩師に出会えたことが「すべて」を決定づけたと言わざるを得ません。その意味ではただ単に「運が良かった」ということですが、「努力が良い出会いを準備する」ということもまた真なのかもしれない、と思うこのごろです。

「神は幸福の前に汗を置いた」(ヘシオドス)——願わくば、子どもたちが努力することの価値を尊び、自ら未来を切り開く大人となりますことを。

青春ライブ授業で使った資料より

- 1) 神は幸福の前に()を置いた。——ヘシオドス
- 2) ()がすべての困難に打ち勝った。——ウェルギリウス
- 3) 才能と()とどちらが大切か。
どちらも必要である。——ホラーティウス
- 4) 才能は天の与えた()である。——エマーソン
- 5) 人間は()する限り迷うものである。——ゲーテ

答 2) 3) 5) が「努力」、1) は「汗」、4) は「使命」

あれは忘れもしない、小学六年生の時のこと。TVのCMで「提供 Calpis」の文字を見て、講師はショックを受けました。

なぜカルピスは Karupisu ではないのか? KではなくてCなのか?最後のuはいらないのか?…頭の中に「?」マークがたくさん点灯した結果、「ああ、中学に行くと、苦手な科目が一つ増えるんだな…」というのが、英語に対する第一印象だったと言います。

「だって、思いませんか? ワンはWANであってほしいでしょう? なぜONEなのか? これは「オネ」であってほしいのに…」

さて、講師が中学生の頃から夢中になったスポーツがあります。それはテニスでした。「もしテニスと出会っていなかったら…」と雨でも雪でもテニスをしたかった日のことを振り返っていただきました。

(硬式テニスだったので、土日だけ四宮のテニスクラブまで自転車で通っていたそうです)

「私はテニスをしたい。だから土日はテニスのためにあるようなものだ。一方、一日は誰にとっても24時間しかない。だから私の勉強法は、人より効率がよくなければならない」

テニスができる時間を捻出するには…そのことがいつも頭の中を去らなかつたそうです。

「そうだ、授業中に先生が『ここが大事』と言う部分を、ただノートに写すことはやめて、そこを()にして、穴埋め問題にしたら、試験前の勉強をしていることになるぞ!」

こうして、テニスへはやる気持ちもさることながら、勉強にやりくりを付ける工夫もまた、講師にとってはオリジナリティを発揮する場として、面白くなってきたのでした。

講師はまた一方で、英語塾にも通っていました。たいへん厳しい塾でしたが、それでもやめずに頑張り通しました。

テニスでは1点差のために汗をかいている自分が存在するのに、自分が同じであれば、どうして勉強に対して努力できないことがある。同じあの自分に恥ずかしく思われないようにしよう。そして、何がなんでも、『勉強のせいで、テニスをやめなければならぬ』という事態だけは避けよう!という考えがあったからでした。

『私は頭がよくないから』というのは言い訳なのです。家や友達の電話番号は、頭がいいから覚えるのではなくて、よく電話をかけるから覚えるのでしょう。それと同じで、英単語も、電話帳を覚えるつもりではなくて、友達になる工夫を考えてほしいのです。

コツは、一つには『貯金する』やり方があります。辞書を引いた時に、thinkがあれば、thoughtも覚える。thoughtful と言えば、「思いやりがある」という形容詞。その反対は、thoughtless です。兄弟の顔は似ているのだから、そうやって芋づる式に単語をノートに書き出していけば、百や二百の単語はあっという間にたまる。これが貯金していくやり方です。

その反対は、人が作った単語集を一日いくつと決めて覚えていくやり方です。先に借金をして(単語集を買って)一日いくらずつとローンを返していくような勉強、これだと、毎日の勉強は借金取りに追われているようでつらいだけです。

要は、『努力とは、苦しみに耐えること、というよりも、楽しく工夫すること』というメッセージをいただきました。

文責 / 福西亮馬

次回 10月29日 pm7:30~9:00

「星野道夫との出会い」(タイトル未定)

講師:松本紀生(自然写真家)

『道具力』——あるいはすっばいぶどうの経験——

文章 / 福西亮馬

「ぼくの日本における最大の夢は、日本に数学コンテストを根付かせること」とは、数学者ピーター・フランクルの言葉です。私はその人物のことや、数学オリンピックのことを知ったのは、まさにA君を通じてでした。

A君は「数の世界」に来ている高校1年生ですが、学校のクラブで、友達と数学オリンピックの問題を解き合っているのだそうです。そこで、私も遅ればせながら、授業でその問題と付き合ってみようと考えたのでした。

*

それまでの私は数学オリンピックと聞くと、お恥ずかしい話ですが、高校時代の偏見をそのまま引きずっていました。今だから懺悔を込めて告白すると、当時は数学の授業についていくのが精一杯だった私は、いつもこう言って（避けて）いたのでした。

「そんなもの、解けたからって…」

と。だからどうなるんだと言いたいわけですが、しかしこれは、ぶどうに届かないから「あれはすっばいんだ」と言う、きつねにそっくりな話なのでした。

さて、私たちが実際にクラスで扱っているのは、本式の国際数学オリンピックの方ではなくて、日本の予選の問題です。それでも、1問解けると「万歳」が出てしまいます。自分のひらめいたアイデアで解けると、本当に嬉しいです。そして「ある力」が試されるなあと、つくづく思います。

私はこれを『道具力』と呼びたいと思います。ちょっと定義しておきますと、

「道具力とは、補題を作り出せる力のことである」

(ここで補題とは、定理を証明するために準備する別の定理のこと)

手順としては、まず問題の姿かたちから、何かをひらめきます。そのひらめいた事柄を、「確かだ」とするのが、補題です。それを鍵にして、定理を証明するのですが、補題さえでき上がってしまえば、あとは応用するだけなので、「勝ったも同然」です。逆に、補題なしでは、竹を手で切るような、手計算をするはめになります。

数学オリンピックでは、本式であれば、「9時間で6問」という、かなりたっぷり目の枠が用意されていますが、それは、計算のためではなくて、計算をしないですむ補題を作るためにあります。

その補題に、もちろん過去の数学者が作った定理を利用することも考えられます。それもアリです。ただ、それを知っていようといまいと、どのみち自分の頭から似たものを作り出せるので一緒だ、と思える、ここが大きな差となるポイントです。もし自分で一から作り出す自信がなければ、たまたま道具があったから解けたにすぎません。ないなら調達して(その中には自作も含まれる)

困難を克服することは、普遍的な力での勝負なのです。それはまた真に将来の未解決な問題を解くための練習にもなります。

**

これは私の幼稚園時代のつたない話ですが、「似顔絵」というものは、肌色の絵の具がなければ描けないのだと、強く思い込んでいました。

ある日、「どうしたの?」と、先生がやってきて、パレットの上に橙と白を混ぜ、知っているあの肌色が、みるみると浮かんでくることに感動を覚えました。私はこの「混色の原理」を自分の物にしたくて、「どうして肌色になるのか」としつこく聞いて回った覚えがあります。質問された側は、どうしてと言われてもそうなるのだから、と思ったことでしょう。

今あの時の私が聞きたかったことを翻訳すると、その疑問は、肌色に限らず、「どんな色でも、同じようにしたら作り出せるのか」ということだったのでした。たとえば茶色は、幼稚園児にとっては絵の具箱にある、おなじみの色ですが、もしなくても、橙と黒から作り出すことができます。またそれを知らなくても、「混ぜれば何とかなる」ことを知っていれば、試行錯誤するうちに、その組み合わせに気付くでしょう。私は実際、その「組み合わせ」に夢中になる物を感じました。

これまで肌色やそれに類する色がなければ描けなかった世界が、ぐんと広がりました。桃色や黄土色は、「絵の具箱」になくても、いつでも今ある色からひねり出して、それを友達に教えることができました。そうすることで、それまで苦手だったお絵かきから、悠々自適の世界へと一歩抜け出したのでした。

同様に、私は知らないことが知識の真の限界ではないことを、痛切に感じます。反対に、「知らないから解けない」で止まってしまっていた自分が、少しずつ脱皮していくことは、苦しくもあり楽しくもあります。道具があることを知らないからではなく、作り出せないから、その意味で解けないのだとするならば、諦めなくてもいい。こつこつと道具を工夫して、少しずつ自在になれるのなら、自分の思うように行かないことでも、そのうちに許容範囲として見られる。

「知っていれば使う、なければ作る」この単純な行為の組み合わせで、問題を解決することは、何も数学に限った話ではありません。

複雑な道具が現在の世の中を支える一方で、その道具自体を作る基礎力が次の世代、また次の世代へと受け継がれていかないと、世の中はどんなに努力しても、縮小再生産の道をたどることになりかねません。

そのことを杞憂に吹き飛ばすために、教育はますます盛んになるべしです。作り出された道具を、次の世代にもたらすだけでなく、作り出す力を育てる点でも。

十月「山の学校」カレンダー

火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
<ul style="list-style-type: none"> ○ しぜん(小・低学年) ○ ことば(小・高学年) ○ かず(小・中級) ○ 中1英語の基本 ○ 英語の読み書き(高校) ○ 数の世界(高校) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ことば(小・低学年) ○ ことば(小・中学年) ○ ラテン語(一般) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ かず(小・初級) ○ かず(小・上級) ○ 中2英語の基本 ○ 中2数の基本 ○ 数と自然(高校) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ラテン語(一般)
			10
50	60	70	80
120	130	140	150 山びこクラブ pm4:00~5:30
190	200	210	220
260	270	280 ふれあいサタデー am9:30~11:30	290 青春ライブ授業! pm7:00~8:30

○…「山の学校」の日 休…休講

『声』

no.9 山下育子先生

——「しぜん」クラス

…今日のしぜんクラスはお山を下り、お家の生け垣や白川通り歩道の街路樹の植え込みを観察しながら、上終公園まででかけて行きました。道ばたを歩いて、春にいたつばめの話をしたり、タンポポのロゼットの形、種を見ていると、みんなの友達や地域の人にたくさん出会いました。



四葉のクローバー見つけた!



なかなかないな…



エノコログサ



スズカケノキ

スズカケノキは、「わたしの木」という感じの長生きの大きな木。これもたった1つの種から生まれたのです。6年生のMちゃんとあっちとこっちから木をはさんだら、ようやく手が届くほどの大きさでした。いったいつからここにあったのでしょうか。私の小さな頃にもここに確かにありました。スズカケの実が落ちる頃、カエデの葉が紅く紅葉する頃、また遊びにいきましょう。今は夜、公園ではきつと虫の大合唱が聞こえていることでしょう。(9月28日の記事)

ラテン語 Quiz

Q.()の名詞の活用形を考えてください。

1. 私は星々を見る。(星 stella、私は見る video)

(stella) video.

1 stella 2 stellae 3 stellam 4 stellas

2. 私はあなたを愛する。(私は愛する amo、あなたは tu)

amo (tu). (= I love you.)

1 tu 2 tibi 3 te 4 vos

ヒント: 正解の文章は、「ステッラース・ウィデオー」
「アモー・テー」と発音します。

ちなみに、「アモー・テー」は、「テー・アモー」でも O.K.です。このようにラテン語の語順が変えられるのは、日本語でも、「私はあなたを愛する」を「あなたを私は愛する」として O.K.であるのと同じです。

ただ、うんちくですが、「te amo」は、e を落として t(e)amo 「タモー」と発音することもできて、ローマの人が昔々に「タモー!」「タモオ〜!」と言えば、今の私たちには、それは「I love you! I love you!!」と同じに聞こえたはず(?)ですヨ。

答え1-4 2-3

「山の学校」のホットな情報はウェブログから!
<http://www.kitashirakawa.jp/~taro/yama/>